



### 笹でカゴを編んでみよう！

2月27日(木)総合センターで笹カゴ作り教室を開催しました。

参加者たちは講師の指導のもと、採取した笹を使って笹カゴを作成していました。笹を器用に編み、上手に笹カゴを完成させていました。



### 祝 100歳おめでとうございます

みずほ区 上田志枝さん 大正9年生まれ  
2月24日(月)石木戸町長から賀状および花束を贈呈しました。

## 急性期脳梗塞治療ネットワーク

県では、埼玉県急性期脳梗塞治療ネットワーク「SSN」の運用が平成30年1月から始まっています。

SSNとは、急性期脳梗塞治療が必要な患者さんを、救急隊の判断で秩父管内の病院を経由せず、SSN参加医療機関に直接搬送する仕組みです。

※秩父地域の患者さんの主な搬送先は次の表のとおりです。

#### 埼玉県急性期脳梗塞治療ネットワーク(SSN)参加医療機関

<b>埼玉県 北部</b>	<b>基幹病院</b>
	深谷赤十字病院 循環器・呼吸器病センター (埼玉医科大学国際医療センター) (埼玉医科大学総合医療センター) (埼玉石心会病院)
	<b>連携病院</b>
	関東脳神経外科病院 熊谷総合病院 行田総合病院 羽生総合病院

※( )は基幹病院を後方支援する医療機関です。  
※SSNは「Saitama Stroke Network」の略称です。

急性期脳梗塞治療とは、血栓を溶かす薬を点滴投与するt- pa治療や、カテーテルで血栓を取り除く血栓回収療法などを行う脳血管内治療です。いずれも発症してから治療を受けるまでの時間が短いほど、麻痺や言語障害などの後遺症を防げる可能性が高まります。

また、SSNは急性期脳梗塞の疑いがある全ての患者さんが対象です。少しでも疑いがある時は、ためらわずにすぐに救急車を呼んでください(その際に発症時間を記録してください)。

救急隊が症状を確認し、急性期脳梗塞治療が必要な場合は、SSN参加医療機関に受入要請、救急車で直接搬送します。救急隊とSSN参加医療機関との広域連携により、患者さんを迅速かつ円滑に受け入れることができます。

#### 急性期脳梗塞の代表的な発症のサイン

- ・体の片側だけがしびれる、力が入らない、動かせない。
- ・ろれつが回らない。
- ・とっさに言葉が出ない、相手の言うことが理解できない。
- ・左右のどちらかにある物が見えていても認識できない。
- ・片側の目が急に見えなくなる。
- ・めまい、ふらつき。
- ・激しい頭痛 など

一時的に回復したとしても、このような症状が起きた後は、急性期脳梗塞を発症する危険性が高いです。早期に治療すれば、回復する可能性が高まりますので、発症のサインを放っておかないように気をつけてください。